



タイムス ワラビ

Vol.1110

子どもも大人も めくるワクワク

沖繩タイムス社 〒900-8678
那覇市久茂地2-2-2
☎(098)860-3000

賀数仁然 著 書店にて好評発売中

さきがけ!
歴男塾
①開講の巻

ワラビーの人気連載がついに一冊に。ユニークなイラストと語り口で知る琉球・沖縄の歴史

B6判 / 189頁
1,000円+税

沖繩タイムス社出版部 那覇市久茂地2-2-2
TEL.098(860)3591

ぶ屏風絵
離脱へ
んだ道

トトのアリ



のアリにしか寄生しないがあるのです。タイワンそのキノコはチクシトってとりつきます。ほく葉には、タイワンアリタがあって、そこへ行くと、の葉の裏に、とりつかれたアリが、点々とくっします。

このアリがいるというがアリタケもあるはずだといま。でも、なかなかアリにとりつくキノコにでた。今回、ようやくつきはキノコの番です。

パッチョ)こと盛口(満)

エイトマシ

糸満市ヒーロー課

451大城さとし

うみ か も つ みなと 海の貨物 港でチェック



コンテナを確認

宮古・八重山から戻ってきたコンテナの番号を書き留める松川哲也さん。この後、コンテナを開けて荷物が下ろされて空になっていることを確認しました—那覇港新港ふ頭

県内の検数を担う組織、全沖縄検数協会は①コンテナの個数チェックや、運ぶ途中に壊れた荷物がなければ確かめる本船検数業務(シブサイド検数)②荷物を荷主に受け渡したり、荷物がコンテナに入るかどうかサイズを測ったりする沿岸検数業務(ドックサイド検数)を港でしています。

松川哲也さん(36)は本船検数業務を担当して4年目になります。屋外での活動が多いため、夏は水分補給や日陰を探して作業をするなど、熱中症対策に気を配ります。「県民の生活に関わる物のほとんどに携わる仕事ができることに、やりがいを感じています」と話してくれました。

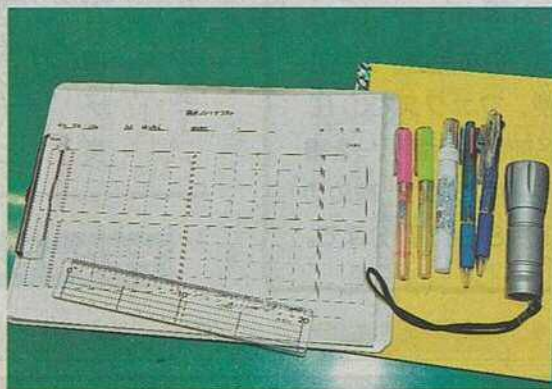
荷主から預かった荷物のサイズを測る沿岸検数業務を見せてくれたのは比嘉真人さん(44)です。取材した日は那覇港で宮古・八重山行きの船に乗せる荷物を測り、必要なコンテナの数を割り出して

島の物流を支える「検数」

島である沖縄では、みなさんが使う文房具や着ている洋服、毎日食べているご飯の食材など、生活に必要な物のほとんどは船でやってきます。コンテナと呼ばれる大きな箱に入れて本土や海外から船で運ばれてきます。また、沖縄島から八重山や宮古に荷物を送り出すこともあります。そういったコンテナの数の確認をしたり、荷物の重さを量ったりする仕事を「検数」といいます。検数を通して県内の物の流れを陰で支える仕事を見てきました。

増える荷物 9割は船から

取材の日、松川さんが使った道具。マス目にコンテナ番号を書き込んで管理します



欠かせない仕事道具

「以前は、県内は人口や観光客の増加で景気が上向きなために荷物が増え、船が大型化しています。これからはタブレット端末の活用など、IT(情報技術)化を取り入れていく工夫も考えています。県内の荷物の90%以上が船に積まれて港から揚がっていると教えてくれた長嶺さん。「少し大きいかもしれませんが、県内の流通の一端を担っていると考えると仕事も頑張れます」とやりがいを語りました。



間違えずに測定

メジャーを使って積み荷のサイズを測る比嘉真人さん。コンテナに入るかどうか計算します

「料金計算してました。測り間違いや電卓での打ち間違いがないように普段から気をつけている」と比嘉さんは「無事に荷物を渡せたときには安心感があります。お客さんとコミュニケーションを頭を抱えます。」

さらに、県内は人口や観光客の増加で景気が上向きなために荷物が増え、船が大型化しています。これからはタブレット端末の活用など、IT(情報技術)化を取り入れていく工夫も考えています。県内の荷物の90%以上が船に積まれて港から揚がっていると教えてくれた長嶺さん。「少し大きいかもしれませんが、県内の流通の一端を担っていると考えると仕事も頑張れます」とやりがいを語りました。

「シモンが取れるのも沿岸業務の楽しみです」と笑います。現在、全沖縄検数協会では14人が職員として働いています。業務部長の長嶺徹雄さん(47)は